

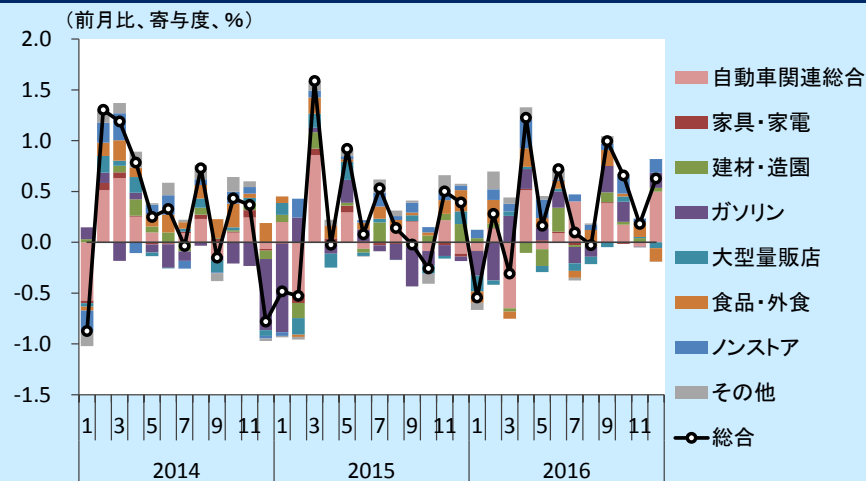
米国：小売売上高（2016年12月）

—消費は拡大基調がやや加速—

MRI Daily Economic Points

January 16, 2017

図表1 小売売上高 項目別 寄与度



評価ポイント

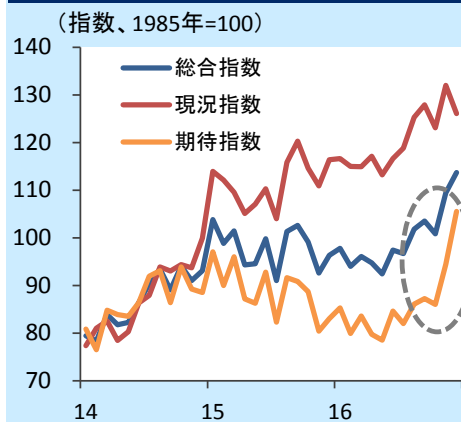
今回の結果

- 16年12月の米小売売上高(1/13日公表)は、前月比+0.6%と前月(同+0.2%)から伸びが加速(図表1)。
- 内訳をみると、小売売上高の約2割を占める自動車関連(同+2.4%)が大幅に増加し、全体を大きく押し上げた。また、ノンストア(同+1.3%)が高い伸びを続けているほか、価格上昇を背景に、ガソリン(同+2.0%)も増加した。一方、外食(同▲0.8%)や、家電(同▲0.5%)、食品飲料(同▲0.3%)は減少となった。
- 全米小売業協会(NRF)は、1/13日に年末商戦での売上高(自動車、ガソリン、外食を除く小売売上高)を公表。16年は前年比+4.0%と、事前予想(同+3.6%)および15年(同+3.2%)を上回った。

基調判断と今後の流れ

- 消費は拡大基調を維持している。16年10-12月期の小売売上高は、前期比+1.6%と前期(同+0.9%)から伸びが高まった。
- 背景には、①良好な雇用環境や、②消費者マインドの改善、③株高による資産効果、などがある。特に、トランプ新政権の経済政策に対する期待を主因に、消費者マインドのうち将来に対する期待が大幅に高まっている(図表2)。
- 先行きも、消費の拡大基調が続くと見込む。トランプ新政権が公約どおり所得税減税を行えば、短期的には消費の拡大ペースが加速するだろう。ニューヨーク連邦準備銀行による消費者の先行き期待に対する調査では、すでに消費者は減税を織り込みつつある(図表3)。
- 下振れ要因は、①トランプ新政権の経済政策が期待したほど進展せず、消費者マインドが後退することや、②拡張的な財政政策による財政悪化の懸念から長期金利が急激に上昇した場合、株安による消費の下押しや、耐久財消費の抑制を招くこと、などが挙げられる。

図表2 消費者マインド



図表3 消費者の先行き期待

